



大館市出身、横浜育ちのジャズシンガー“meg”と盛岡市出身ジャズボーカリスト北田一トリオによる迫力あるステージ。(8月31日)



秋田大学学生グループの協力により作成設置されたペットボトルランタン。(8月31日)



大森山グリーン広場に設置されたバルーンアーチ。(8月31日)



広面小学校児童によるヤートセ演舞。(9月1日)



秋田市出身のシンガー渡部絢也によるミニライブ。(9月1日)



大森山動物園の夢と未来を語る標語・作文表彰式で、作品を発表する最優秀受賞者のひとり、明徳小学校 ひろのりゅうのすけさん(9月1日)

# 大森山動物園 開園40周年を終えて

特集1

企画広報担当 主席主査 八柳 泰輔

大森山動物園は、実にたくさんの企業、団体等との「つながり」を保ちながら運営されています。秋田市役所内の他課所室との連携、交流はもちろんですが、小学校から大学までの教育界全体との教育的活動、警察との児童立ち直り活動、報道各社や出版各社への情報提供、トップスポーツチームとの協働、社会奉仕団体や民間企業との協働による地域の賑わい創出に関する活動や地域経済活性化に関する活動など、ひとつひとつ数えたら誌面には書ききれないほどの様々な「つながり」を保っています。

そのような「つながり」を構築し保つていけることができるのは、動物園が観光施設であり教育的施設であり環境保全施設であるなど、様々な「顔」を持っていて、多種多様な切り口から、たくさんの方々に必要とされ、活用されているからだと思っています。そして、この「つながり」こそ、動物園を発展させてきた原動力となっているのではないのでしょうか。



ニューリーダーズネットワークによる大森山動物園40周年記念植樹。(4月14日)



40周年を記念してサル山に「40」の文字をあしらった「あそび木」を設置。(4月26日)



大森山動物園の40周年を記念して秋田公立美術工芸短期大学学生によりデザインされたイメージキャラクター「オモリン」のお披露目と秋田銀行からの「のぼり」の寄贈式。(7月20日)



昨年、大森山動物園は開園40周年を迎え、年間を通じた様々なイベントの他、開園記念日である9月1日には「開園40周年を祝う会」その前日である8月31日には大森山公園全体

を活用した「開園40周年を祝う会前日前夜祭」を行いました。

8月31日の前日前夜祭は、「森と動物の音楽祭」と題して、大森山公園グリーン広場に仮設ステージを設けた大がかりなものでしたが、午前中はあいにくの雨にたたられ、予定されていたわらび座による和太鼓と笛によるアトラクションと地元小学校、中学校、高校によるプラスバンド演奏は中止せざるを得ませんでした。夕方からの秋田ゆかりのアーティストたちによるジャズライブは予定通り開催され、不安定な天候にもかかわらず、たくさんの方に来場していただいたことについて、本当にうれしく思っております。

また、9月1日の「開園40周年を祝う会」には、地元小学校など教育界や音楽界、報道関係からの協力の他、企業、団体、県議会議員、市議会議員など、各界の代表者に快く出席していただき、盛大に開催することができました。

今回の40周年記念事業は、実行委員会を設立し、音楽関係部会、飲食部会、式典関係部会、未来を語る部会など、合計8部会で構成され、それぞれの部会が、知恵を出し合い、連携をとりながら準備を進めました。これは、動物園と各界の「つながり」があってこそできたことだったと思っております。10年前の開園30周年記念時の記録を見る限り、この10年で、さらに動物園が各界から注目され飛躍的に成長していることに確信を持つことができます。

40年という節目を迎え、次のステップに踏み出した大森山動物園が今やらなければいけないことは、次の世代へと確実に大森山動物園を、残し、つなぎ、発展させることではないのでしょうか。

今の大森山動物園を、支え、創り上げてきた主な要因は、飼育展示担当の日々の地道な努力と「俺はこうしたい!」「私をもっとこうしたい!」という高いモチベーションにあると言っても過言ではありません。そして、これは、将来に向けて、もっと、すてきな動物園を創り出す「人」であり「心」です。

震災後、心の時代といわれる昨今、社会からの動物園へのニーズは増えるような気がします。もしかしたら、この先、今では考えも及ばないようなニーズがあるかもしれません。ただ、どのような時代背景においても、「動物園が動物園で有り続ける」ことが肝要であり動物園活動のベースになるものです。「動物園が動物園で有り続ける」こと、「そこに行けば光り輝く動物たちがいる」こと、これを維持して実現させ続けることは簡単なことではありません。

動物園は、「人」により創られ、「人」との「つながり」により保たれています。そして動物園には「心」があります。見て欲しい、来て欲しいと思う者の「心」と、動物園に来て、例えば、初めて本物のゾウを見た子どもに芽生えた「心」です。その「心」と「心」を大切に育むことが、より良い動物園を創ることにつながり、たくさんの方々との「つながり」を保つことにつながるのではないのでしょうか。

今年の夏竣工予定のビジターセンター建設のため、大森山動物園の正面ゲートが取り壊され、連日、吹雪の中大きな重機が寒さをもとめせず動いています。今年の初夏、大森山が新緑の美しい緑につつまれる頃には、新しい大森山動物園の「かお」が完成し、皆さまをお迎えする予定です。この施設は、飲食店や売店の他、大森山公園に来た方ならどなたでも利用できる室内施設も併設した大森山公園の拠点となるものです。

40年の節目を終え、もう一歩前進しようと頑張っている大森山動物園を今後ともあたたかく見守ってください。どうぞよろしくお願いします。